

(様式2) 令和元年度〔自己評価報告書〕

| | |
|------|--------|
| 学校番号 | 学校名 |
| 44 | 上丸子小学校 |
| 校長名 | 中西 憲子 |

| 学校教育目標 | 学校経営の目標 | 今年度の重点目標 |
|--|---|---|
| <p align="center">「3つの心を育もう」 学びの心 たくましい心 やさしい心</p> | <p align="center">確かな学力を育む学習指導・教育課程の創造 なりたい自分、つくりたい社会が実現する学校・学級づくり 安全・安心で自己発揮ができる学校・学級づくり 保護者・地域が参画する学校づくり 学び合う教職員風土の醸成 探究的・創造的な学校組織の創出</p> | <p align="center">明るい笑顔とやさしい気持ちで、夢広がる学校づくり 一人一人の児童が「居場所」「拠り所」を感じられる安全・安心な学校づくり 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> |

| 評価項目 | 具体的な取組 | 実現状況及び課題 | 具体的な改善策 |
|--------------------|---|---|---|
| 1 確かな学力の向上 | <p>学習指導要領の改訂の方向性を踏まえた授業改善を図る</p> <p>○学習指導要領の改訂の基本理念「主体的・対話的で深い学び」を踏まえて、子どもたちが「能動的に学ぶ授業」に向けた授業改善を図る。</p> <p>○「深い学び」の実現を目指し、「考えを深めたり、広げたりする話し合い」「丁寧な振り返り」を位置付けた授業づくりに取り組み、授業力の向上に努める。</p> | <p>○学習指導要領の改訂を意識し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に取り組んだ。校内研究ワーキングを中心に、算数における「能動的に学ぶ授業」について全教員で協議し、探究することができた。算数の授業改善への知見を、汎用的に各教科等に生かすことに関しては課題が見られる。</p> <p>○授業改善ワーキングを中心に、各学年で授業改善について課題を設定し、解決に向けて取り組むことができた。職員会議での各学年の報告は、PP等を用いて内容的にも充実していた。各学年で、また学年を越えて、授業について語り合う姿も見られ、成果として捉えている。授業改善の視点の理解については、さらに深めていく必要がある。</p> | <p>○校内研究を中心に、すべての学習に通じる「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善について取り組んでいく。</p> <p>○校内研究と授業改善は一体であることから、ワーキングの枠組みの再構成を検討していく。</p> <p>○教員の話し合いの手法やスキルの向上を図る。教員の知識・技能の向上が、子どもたちの活動に生かせるように協議の方法や研修の在り方を工夫していく。</p> |
| 2 | <p>地域・学校の特色や児童の実態を生かした体験学習を教育活動に位置付けた生活科と総合的な学習の時間を中核としたカリキュラム・マネジメントの推進を図る</p> <p>○次年度の学習指導要領の全面実施を見据え、多摩川カリキュラム等、生活科と総合的な学習の時間を中核にしたカリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>○教育課程との関連から行事の在り方を見直していく。「文化祭」「多摩川デイ」における各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にする。</p> | <p>○授業改善ワーキングが、生活科と総合的な学習の時間を中核とした単元配列表の作成が提案された。3年生以上の学年では、多摩川以外の総合の単元を新たに創出することができた。多摩川については、意識はもっているがカリキュラムの再編成には至っていない。次年度も継続して、取り組む必要のある課題であると捉えている。</p> <p>○「文化祭」「多摩川デイ」共に、育成を目指す資質・能力を踏まえたねらいを設定して取り組むことができた。「文化祭」については、全学年が教育課程に位置付く学習の成果として表現活動に取り組むことができた。また、今年度の実践を踏まえて、次年度の方向性を提案することができた。「多摩川」については、カリキュラム同様継続する課題である。</p> | <p>○生活・総合を中心としたカリキュラム・マネジメントを担うワーキングまたは部会について検討し、責任の所在を分散化するとともに明確にする。</p> <p>○「多摩川デイ」については、検討する部会を構成し、検討する。経年での課題であるので、最重要課題である。</p> <p>○「文化祭」は名称を検討し、今求められる学習の在り方や資質・能力の発信の場として充実を図る。年間を通して意識的に情報を発信し、保護者や地域への理解を求めていく。</p> |
| 3 自分をきたえ育む児童の育成 | <p>規律ある学年、学級経営のもとで、規範意識と自己有用感の醸成を図る</p> <p>○「違いを認め合い、みんなと共に生きていく力」「よりよい集団や社会をつくろうとする力」が「なりたい自分に向けてがんばる力」を育成する基盤としての学級経営の充実を努める。学級会を計画的に行い自発的・自治的で自浄力のある学級をつくる。また、その一員としての自己有用感を高める。</p> | <p>○学校教育目標がすべての教育活動の基盤であることを周知し、各学級では学校教育活動を踏まえた学級目標を掲げることができた。担任としての在り方については、学校運営方針を踏まえて職員会議での講話の中で繰り返し伝えた。</p> <p>○特別活動ワーキングが指導性を発揮し、学級会の充実を図った。運営に必要な資料や用具を準備し、計画的に推進することができた。学級によっての取組を把握し、学年としての積み上げができるように共通理解を図る必要がある。</p> | <p>○学級会の充実に向けて、年度当初の共通理解を行う。また、学級の立ち上げについての基本事項や年度を通して実施することの重要性について、4月に研修を行い次年度をもって重点課題から外せるようにしたい。</p> <p>○キャリア・パスポートの導入に伴い、年度の目標や各行事での目標等を整理し、実効性のある活用を検討する。</p> |
| 4 | <p>心と体の健康への意識を高めるために、体育、食育を中心とした健康教育の推進を図る</p> <p>○健康安全(食事、体力、防災意識)と日常生活を結びつけ、自分の成長のために自発的、主体的に実行しようとする自己指導能力を育成する。</p> | <p>○健康安全についての教育課題と学習や教育活動との関連を再検討する必要がある。</p> <p>○体力については、キラキラタイムを設定し一定の成果をあげることができたが、年間の見直しをもった効果的な取組には至っていないと考える。</p> <p>○食育、防災意識については、校務分掌と指導部との関連が不明確で、新たな取組を創出することができなかった。</p> | <p>○各教育課題解決に向けて、推進する責任の所在、役割、次年度の達成目標を明確に位置付ける。</p> <p>○ワーキングの枠組みを特別活動の視点からも検討する。</p> <p>○体力の増進については、スポーツテストの見直し、年間を通したキラキラタイムの効果的な運営を図る。</p> |
| 5 | <p>特別活動を中心として自主的・自治的な活動を保障する</p> <p>○児童の創意、発意に基づいた係活動、当番活動、委員会活動、クラブ活動、たてわり活動の充実を図り、自主的・実践的な活動を促す。</p> | <p>○係活動、当番活動については、特別活動ワーキングからの情報発信を踏まえて、各学級で工夫した取組が見られた。創意工夫は保障しながら、特別活動での位置付けについては確認する必要があると感じられた。</p> <p>○子どもたちの自主的な活動が見られた。異学年のかかわりは本校の子どもたちにとって有益であることがうかがえた。運営の仕方について、必要に応じて改善を図る必要がある。クラブ、委員会では創意工夫のある活動がいくつか見られた。先進的な取組を広げていきたい。</p> | <p>○係、当番活動は、学級会と同様に年度初めの学級の立ち上げに資するような共通理解を図る。</p> <p>○たてわり、クラブ、委員会の担当者がそれぞれの目的を年度当初に提案、共通理解し、その成果が上げられているかどうかを把握し、評価・改善に生かせるようなくみをつくる。</p> |

| | | | | | |
|----|----------------------|--|---|--|--|
| 6 | 一人一人を大切に した児童指導 | 児童支援コーディネーターを中心とする教育相談体制を推進し、保護者との連携を深める | <p>○一人一人の児童にとって居場所があり、安心して自分の力をのびのびと発揮し、自己肯定感を高める場としての学校づくり・学級づくりに取り組む。</p> <p>○児童理解ワーキングを中心に情報交換を行い、報告・相談・連絡を徹底する。個々の児童の状況に応じた対応、取組を迅速に行うと共に、学年がチームで対応する体制を確立する。</p> | <p>○児童支援コーディネーターの指示のもと、教頭、教務主任、コーディネーターの後追いが連携を図り、各学級の子どもや担任の様子について把握に努めるとともに、問題に対して早急に対応することができた。入り込み、取り出しの実績もあげられた。</p> <p>○教育相談を受けるだけでなく、学校から発信し、保護者と一緒に課題を共有し、協力を仰ぐことができた。</p> <p>○学年で子どもたちを育てる意識が高まった。ケース会議を主任を中心に学年発信で行えた学年があった。学年で役割を分担し、チームで対応することができた。相談、連絡は迅速に行っていたが、報告についてはさらに充実を意識する必要がある。</p> | <p>○それぞれの役割を明確にし、年度当初に確認する。学年や担任の一次支援の充実を級外が支援できる体制をつくる。</p> <p>○児童支援コーディネーターの役割を整理するとともに、児童支援ワーキングでの作業を行う。</p> <p>○今年度の研修を生かして、学年でのケース会議の在り方を自分たちの体験から学ぶ。そのためにも、報告を確実にし、OJTIに対する意識を高める。</p> |
| 7 | 一人一人を大切に した児童指導 | いじめ未然防止に向けて効果測定、共生＊共育、学校生活アンケート等の有効活用を図る | <p>○効果測定の活用、共生＊共育の充実、人権週間等の効果的な取組を行う。</p> <p>○児童理解の態度、人権意識を高め、いじめの未然防止を図り、児童の範となる言動・行動に努める。</p> | <p>○人権週間は、「キラキラデイズ」として重点を置き取組を発信した。人権講演会をはじめ、道徳、特別活動、総合等で人権に関する授業を公開することができた。</p> <p>○効果測定、共生＊共育については、取組が安定している。それらを行うことが目的ではなく、学級経営、児童指導の方法の一つであることを確認した上で継続することが可能であると思われる。</p> <p>○学校生活アンケートを学級の状態に応じて実施、実態の把握に努めた。教師としての行動、言動については職員会議の講話の折に繰り返し確認してきた。教師としての人権感覚の伸長については、引き続き、問題意識をもって取り組んでいく。</p> | <p>○「キラキラデイズ」は、継続して人権尊重教育の発信の場としていきたい。学年としての年間の取組を見直し、効果的な発信となるように提案する時期を年度当初にする。</p> <p>○効果測定との関連が図れるように資料を収集し、共生＊共育のレパトリーを広げたい。</p> <p>○職員間で気付いたこと、気になることを指摘し合えるような雰囲気づくりを努める。</p> <p>○毎年度総括教諭を中心に体罰の研修を行っている。自分たちで問題を捉え、総括教諭中心に解決が図れるように促す。</p> |
| 8 | 一人一人を大切に した児童指導 | 道徳を中心とした人権尊重教育を通して、道徳実践力を高める | <p>○地域や保護者、地域等の人・もの・こと等を活用し、道徳の授業を充実させる。また、道徳で学んだことを学校生活で発揮することに努め、相手意識をもった道徳実践力の向上を図る。</p> | <p>○地域や保護者、地域の人・もの・ことを生かした道徳の授業づくりを意識することができた。</p> <p>○「キラキラデイズ」で発信することができた学年もある。道徳通信等の新しい試みも見られた。年間を見通した継続的な取組となるようにしていくことが課題である。</p> | <p>○総合、特活との関連を単元配列表に可視化し、対象だけでなく価値項目についても関連を図っていく。</p> <p>○児童指導部会、道徳部、学年の役割分担を明確にし、ユニット作成、道徳の授業の充実を努める。</p> |
| 9 | 保護者・地域が 参画する学校づくり | 学校運営協議会と学校運営との連携を強化し実効性のある学校評価につなげる | <p>○学校の課題解決に向けた協議の場としての学校運営協議会の在り方を確認し、日常的な学校運営への参画を促すとともに、求められる教育の方向性を踏まえた組織の見直しを行う。</p> | <p>○教育委員会における学校運営協議会の位置付けをご理解いただき、学校運営の諸問題を協議する場として運営することができた。実施回数、参加する職員等についても提案した内容をご理解いただき、働き方改革の一助となった。活動内容を発信していきたい。</p> <p>○本年度は多くの委員の方々から学校行事や授業のゲストティーチャーとしてご来校いただき、子どもたちや教職員の教育活動の様子をみていただいた。学校評価についても外部評価やご意見をいただくことができた。</p> | <p>○学校運営協議会について、保護者や地域に積極的に発信していく。学校だよりやHPでの発信を行っていく。</p> <p>○学校で担うこと、地域でお願いすることの線引きをしながら、その仲介や運営をお願いしていく。</p> <p>○子どもたちや教職員との関わりの場を増やしていく。</p> |
| 10 | 保護者・地域が 参画する学校づくり | 学校の取組について効果的・積極的に発信し、学校運営への理解と協力を仰ぐ | <p>○学校の取組を保護者や地域に積極的に発信し、理解と協力を求める。情報発信の手段として学校HP、学校だより、授業参観(T.T.保護者参加、外部講師等の工夫)を有効に活用できるようにする。</p> | <p>○学校だよりでは、学校教育目標を踏まえた教育活動について計画的に発信した。学校だよりの内容を、地域やPTA役員会、運営委員会等で学校の姿勢をご理解いただけるように広報に努めた。学年だよりも学年の活動や授業の様子、子どもたちの授業の振り返り等を載せ、改善に努めている。</p> <p>○学校HPは迅速な内容の更新を図り、昨年度の課題を克服できた。</p> <p>○懇談会のある日の授業参観は、懇談会への参加率を上げるために5校時としたが、全日の公開を求める声もある。その反面、全日の公開日「キラキラデイズ」の来校者が多くはないという実績もある。</p> | <p>○学校としての取組を学校だより、学校HPでは引き続き発信していく。各学年の取組を意識的、効果的に発信できるように学年の中に情報発信の役割を明確にし、年間を通じた取組としていく。</p> <p>○行事や取組に対する保護者からの意見についても、発信していく。</p> <p>○学校の授業はいつでも公開しているという学校の姿勢を伝えていく。子どもの様子で相談があるときには、学校から保護者の参観をお願いすることも考えていく必要がある。また、学級での発表会や報告会等をメールで知らせ、保護者も一緒に授業に産する体制をつくっていきたい。</p> |
| 11 | 保護者・地域が 参画する学校づくり | 外部の専門家等を活用して、求められる教育を工夫する | | <p>○外部講師や地域の方々、保護者の方々に講師としての授業づくりを積極的に行うことができた。例年の実績ではなく、学習に必要な講師を新規に開拓し、授業をつくることができた。</p> | <p>○より広く地域に呼び掛けられるように、学校運営協議会へ協力を依頼する。</p> |

| | | | | | |
|----|-------------------------------|--------------------------------------|---|---|---|
| 12 | 教職員 の 資質・ 能力の 向上 | ミドルリーダーを中心として、職員研修の企画・実施を行う | ○副主任を中心とした主体的で必然性のある研修を計画、実施する。 | ○副主任を中心とした研修を定例で行うことができた。各担当が自分の得意分野を生かした研修を計画・実施することができた。 | ○研修の内容について、学習指導要領の全面实施を踏まえた内容で行うことを確認する。 |
| 13 | | 総括教諭を中心として、ライフステージに応じた研修と校内研修との連携を図る | ○学び合う職員集団としての協働体制の確立を目指し、研修の充実を図る。 ○日常的な情報交換、授業参観を行い、授業力、指導力向上に向けた自己啓発を図る。 | ○長期休業中の研修については、教務主任と部会の責任者を中心に学校として必要な内容を位置付けることができた。公書の公開授業についても積極的に参加し、授業力の向上への意欲が感じられる。 ○校内で行われる悉皆の授業研究会には、学年や教科の分担を超えて多くの教員が参加していた。また、学年内で授業をもったり、情報交換をしたりすることも日常的に行えた。 | ○研修の日常化、また興味・関心に則って多様化することを促す。 |
| 14 | | 学校運営方針、学年・学級経営との関連を意識する | ○全ての校務分掌を通じ「学びの心」「たぐいまい心」「やさしい心」を育む教育活動を推進するために、学校運営方針を踏まえた学年・学級目標、グループ目標、個人目標を明確に設定する。 | ○学校運営方針の保管方法を工夫させ、日常的に意識することを促した。 ○ワーキンググループでは、学校運営方針を踏まえたグループ目標を設定し、実現に向けて取り組んでいた。リーダーを中心とした中間の振り返りも効率的に行っていた。また、年度末の振り返りでは、今年度の課題を踏まえた来年度の方向性を導き出すことができた。学年・学級経営にも連動を図る必要がある。 | ○日常的に意識させたいことを可視化していく。 ○学年・学級経営案の形式を見直し、それらを基盤に学年会等が行われるようにしていく。書いて終わりではなく、更新することを前提とした計画書を工夫する。 |
| 15 | 機動的・ 協働的 な 組織づ くり | 主任・副主任を中心とした学年経営の充実を図る | ○指導体制の工夫・改善により、学校・学年・学級経営の充実を図り、全教職員で学校の児童全員の教育活動に関わっていくとする体制づくりを推進する。 ○積極的な交換授業を行い、複数の目で学級、児童を見ていく体制をつくる。 | ○教頭、教務主任、児童支援コーディネーターが授業を担当し、各学年の様子を把握し、学年主任に適切な提言を行うことができた。級外の教員は各教室で給食をとり、担任を支援していた。 ○職員会議で学年や学級の状態を交流し、学年や学級を越えた子どもたちへの声掛けや担当への支援ができた。 ○4・5・6年生では、交換授業を行った。6年生は教科を分担し、学年全体で子どもたちを育てようとする体制を示すことができた。 ○学年主任の指導の下で、学年の状況に応じて低学年でも交換授業を行い、子どもたちや学級の様子について情報交換を行っていた。 | ○全教職員で学校の子どもたちを見ていくという基本的な姿勢を本校の強みとしていく。 ○固定的な役割とせず、その年度の状況に応じて級外の教員も授業を行っていくようにする。 ○教科担任制への移行も視野に入れながら、交換授業を行っていく。交換授業等を行うことを、評価等での教員の負担軽減につなげていく。 ○1年ごとの学級編成であるため、年間を通して複数の目で子どもたちを見て、よりよい編成ができるように工夫していく。 |
| 16 | | ワーキングチームでの迅速な課題解決と円滑なPDCAサイクルの稼働を促す | ○働き方改革の方向性を踏まえ、効率的な会議、事務処理の在り方・職場環境等を検討する。 | ○あいさつの啓蒙については、特別活動ワーキング、児童指導ワーキング等の複数の部会の担当者が協議し、年間を通しての取組を構築することができた。 ○留守番電話は、地域、保護者にはご理解いただき、円滑に導入することができた。行事等の精選については行うことができたが、働き方改革は、具体的な取組が行えていない。 | ○重点課題については、部会を越えた取組が必要である。年度の重点については他との軽重を明らかにし、役割を明確に分担する。 ○教職員発信の働き方改革が必要である。 |
| 17 | | 前例踏襲ではなく目的に向かって方法を創出できる組織づくりを目指す | ○学校経営方針を踏まえ、学校運営を見通した運営委員会での協議の充実を図る。 | ○学校運営方針を踏まえ、「旅立ちの会」のように新たな取組となった行事がある。「文化祭」についても年度ごとに課題を整理し、今年度の評価をもって新たな提案につながった。その反面、前年度同様の提案によって、課題の解決につながらなかつた行事や活動もある。 | 新たな方法を創出し、挑戦することを次年度も課題として掲げていく。次年度は特に教育課程の編成を踏まえて、あらゆる教育活動を見直していく必要があり、その視点をもって教職員の資質・能力の向上を促していく。 |

| 学校関係者の評価 | 今年度のまとめ・次年度へ向けての取組 |
|---|---|
| <p>○学校運営方針の実現に向けて、各課題の解決に教職員が協働して取り組んでいることが、保護者や子どもたちの評価からもうかがえる。社会の変化に伴って子どもたちが直面する問題も多様化している。学校は、それらを的確につかんで指導することについても考えて欲しい。</p> <p>○経験の浅い教員が増えている中で、学校内の教員を育てるしくみをつくり、地域や保護者が支えられるようでありたい。</p> <p>○体力の向上については、経年の課題である。授業や休み時間の活用の工夫だけでなく遊び方を教えることや体力の必要性について考えさせる等多面的に取り組む必要がある。あいさつについても毎年度話題になっている。学校評価の数値からも努力を要することがうかがえる。周りの大人からの発信をもっと呼び掛けていきたい。</p> <p>○保護者、地域の協力のもとに、働き方改革を進めて欲しい。本質的な軽減につながるように、学校のために何ができるかを考えていきたい。</p> <p>○小さいときからの人権教育は大切である。子どもがしたことでも、人権侵害につながることはしっかりと指導して欲しい。</p> <p>○学校の取組をもっと発信する方法を工夫する必要がある。</p> | <p>○昨年度の振り返りを踏まえ、課題として設定したことについては概ね取り組むことができた。学校評価や各分掌の振り返りを生かして、PDCAサイクルを稼働させながら学校運営を行うことをこれからも基本として取り組んでいきたい。</p> <p>○次年度の学校運営の中核は、「社会に開かれた教育課程の編成」である。最重要課題の解決を柱に、子どもたちの資質・能力の育成、教職員の授業力の向上に取り組む。そのために、校務分掌やワーキングの枠組みや在り方を検討していく必要がある。</p> <p>○働き方改革については、教職員からの発信で取り組んでいきたい。働き方改革は単なる業務の削減ではないことを踏まえて、仕事の仕方を見直し、「子どもたちに笑顔で向き合う」ための時間の確保に努める。</p> <p>○教育公務員としての自覚をもって、人権感覚を磨く意識を高めたい。また、組織の一員としての意識を高めるとともに、新たな挑戦をもって価値ある教育活動を創出すること、スピード感をもって課題の解決に取り組むことを意識させたい。</p> |